

3 台風被害防止チェックシート

～台風の襲来前点検～

解説編

項目		点検ポイント
台風襲来前の準備・点検	①	ハウスの周りの物が飛ばされると、被覆資材にぶつかり破損します。 <u>片付けるか、しっかり固定しておきましょう。</u>
	②	出入口の戸車・レールに外れや傷みがあると、強風であおられて破損するだけでなく、中に風が吹き込むことで、被害が大きくなります。 <u>隙間なく閉められるように補修しましょう。</u>
	③	天窓から風が吹き込むと、被覆資材がはがれて、施設が浮き上がって壊れます。 <u>天窓をきちんと閉めましょう。</u> ワイヤーで固定すると、なお良いです。
	④	<u>被覆資材がたるんでいると、強風でバタつき、破れやすくなります。</u> たるみ、破れはすぐに直しましょう。
	⑤	<u>ハウスバンド、被覆資材の留め具が緩んでいても、やはり強風であおられます。</u> 緩みがないように、しっかり締めましょう。
	⑥	<u>ボルトを今一度締め直しましょう。</u> 鉄骨ハウスの場合、ブレースも締め直しましょう。(ブレースの場合は、1箇所だけを締めすぎないように、 <u>付近のブレースを調整しながら締めましょう</u>)
	⑦	ハウスの側面から風が吹き込んでくることもあります。 風を防ぐため、 <u>スプリングやパッカーで側面の被覆資材を固定しておきましょう。</u>
	⑧	谷樋、縦樋にゴミが溜まると、水があふれて、施設に浸水してしまいます。 <u>あらかじめ通水して、流れない場合は掃除をしましょう。</u>
	⑨	風が強く吹く場所に、防風ネットを張っておきましょう。 <u>折れたり曲がったりしたパイプ、サビが出たパイプは、新品に比べて強度が劣るため、補強に使ってはいけません。</u>

(番号はP.13～14の項目と対応しています)

項目		点検ポイント
周辺環境	⑩	排水溝からスムーズに排水されないと、地際が水浸しになって強度が下がります。 <u>施設周辺の排水溝のゴミは片付けておきましょう。</u>
	⑪	強風による燃料タンクの転倒やふたの飛来を防ぐため、 <u>針金などで固定しておきましょう。</u>
その他対策	⑫	<u>台風後にすぐ応急処置できるよう</u> 、補修用資材と工具（補修テープ、ハウスバンド、スプリング等）を準備しておきましょう。
	⑬	台風では潮風害のリスクもあります。 <u>台風が通過したらすぐに作物を洗い流せるよう、貯水タンクや動噴の準備をしておきましょう。</u>
	⑭	低い場所に建っているハウスの場合は、冠水・浸水の危険があるため、 <u>排水用ポンプを準備しておきましょう。</u>
	⑮	停電時も手動で操作できるよう、確認しておきましょう。 <u>サイド巻上げ、カーテン等は、充電式ドリルで開閉できる機種もあります。</u> 充電式ドリルを使える機種かどうか確認して、必要に応じて準備しておきましょう。

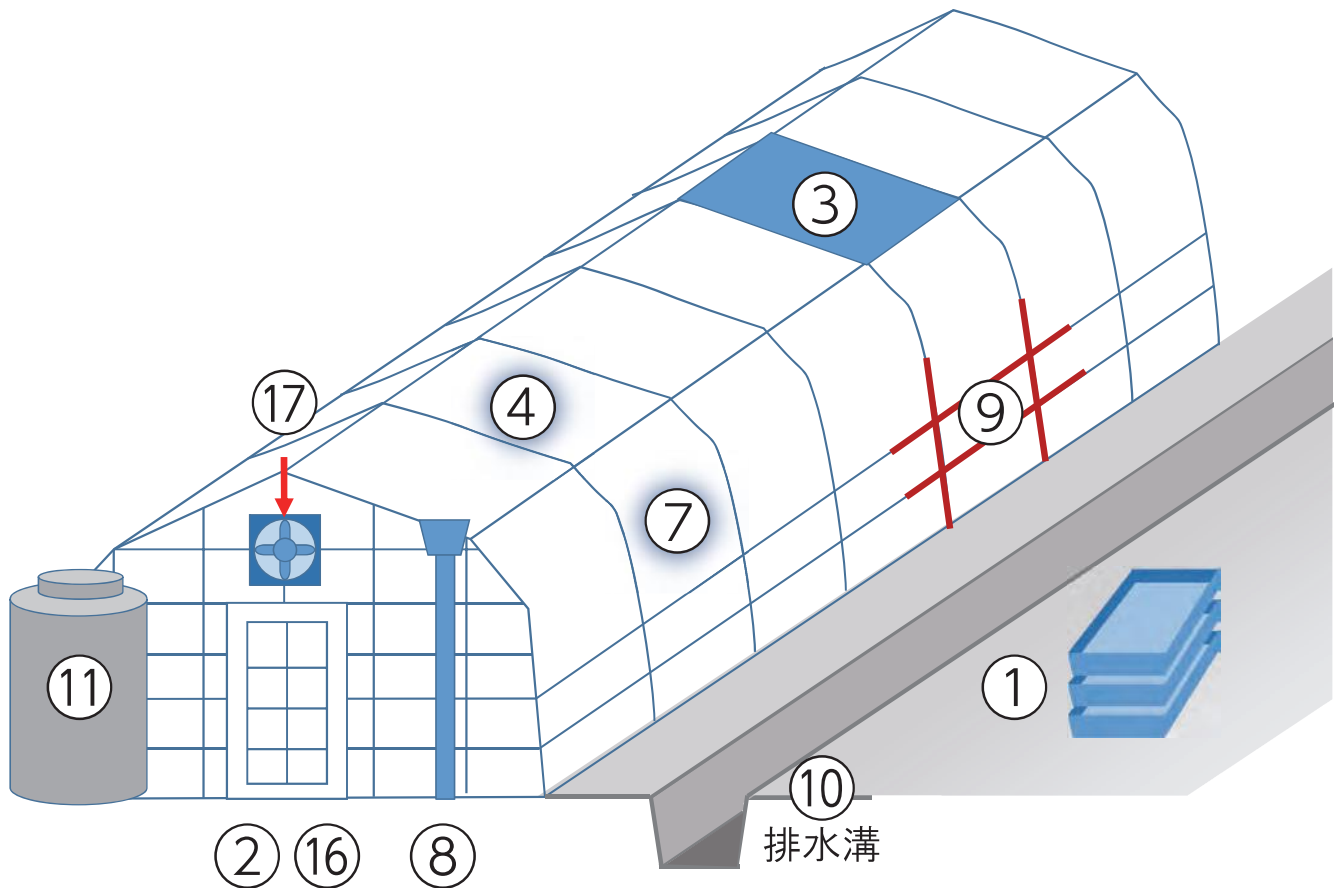
※台風直前の最終チェック項目※ (人命優先で作業しましょう！！)

項目		点検ポイント
直前対策	⑯	<u>今一度、戸締りと片付けを徹底しましょう。</u> → 隙間からの風が吹き込むと、ハウスが倒壊します。 → ハウス周辺に物があると、飛ばされて危険です。
	⑰	<u>(換気扇があれば) 吸入口を閉め、換気扇を回しましょう。</u> ハウス内の圧力を下げると、フィルムがハウス内に引き付けられるので、フィルムのバタつきを軽減できます。

3 台風被害防止チェックシート

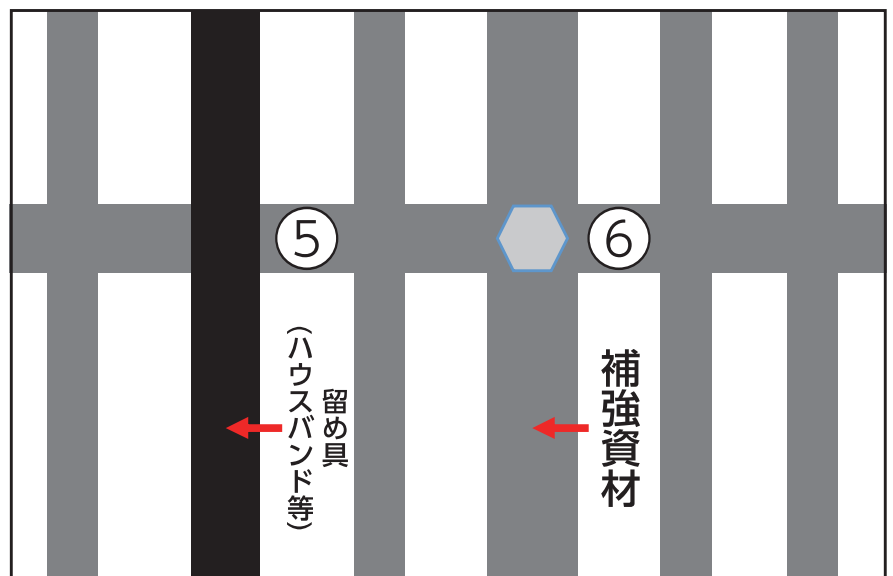
～台風の襲来前点検～

チェック編



準備・確認事項

- ⑫ 補修用資材
- ⑬ 散水装置
- ⑭ 排水ポンプ
- ⑮ 手動操作方法



できている → ○ できていない → × 該当なし → —

項目 No.	点検項目	チェック記入欄			ハウス呼称		
①	ハウスの周りを片付けた						
②	出入口に隙間がない						
③	天窓・サイドを閉めた						
④	被覆資材にたるみがない						
⑤	留め具に緩みがない						
⑥	ボルト等を締め直した						
⑦	被覆資材を固定した						
⑧	谷樋・縦樋は掃除してある						
⑨	過去の被災箇所を修繕した						
⑩	排水溝は掃除してある						
⑪	燃料タンクと蓋を固定した						
⑫	補修用資材を準備してある						
⑬	散水装置を準備してある						
⑭	排水ポンプを準備してある						
⑮	手動操作方法を確認した						

※台風直前の最終チェック項目※

⑯	戸締りと片付けが済んだ						
⑰	吸入口を閉じて換気扇を回し、 フィルムを引き付けている						